

本書の内容と使い方

1. 薬価基準収載品目（令和5年3月3日告示まで）を、内用薬、外用薬、注射薬および歯科用薬剤の順に掲載した。
2. 同一投与経路の商品名は50音順に配列した。ただし、品名が「強力」「複合」「50%」等の文字や単位で始まるものは、それを“接頭語”とみなし、それらを省いた50音順に配列した。また、本書での品名は承認販売名および官報告示に基づく名称とし、「電子処方箋対応YJコード医薬品名」として使用できるが、一部の常用外の漢字や記号について後述する凡例⑫を参照されたい。
3. 前付け付録として、診療報酬関連の薬剤の部分のみを抜粋した「点数早見表」、および「投与日数に制限のある内用薬・外用薬」を掲載した。投与日数制限の掲載対象品目は、薬価基準収載後1年未満の新医薬品、麻薬、向精神薬である。
4. 副腎皮質ホルモン剤の内用薬・注射薬（一部を除く）の「効能・効果」については、本文の後ろに「別掲」として掲載した。
5. 「別掲」の後ろに、付録として「Ⅰ. 適応外使用・審査情報提供事例／支払基金における審査の一般的な取扱い（医科）」、「Ⅱ. 会社連絡先一覧」、令和5年3月31日で経過措置期間が終了した品目等を記した「Ⅲ. 経過措置期間が終了した銘柄収載品およびそれに準じる統一名収載品」を掲載した。
6. 巻末に、本書収録品目について一般名の50音順にまとめた「一般名索引」を掲載した。
7. 本書の内容は、令和5年3月3日までに入手した添付文書等を基に作成した。

【本書の記号・略号】

- ㊦：日本薬局方収載品目 ㊧：銘柄収載日本薬局方医薬品 ㊨：統一名収載品目
㊩：低価格のため統一名収載となった日本薬局方医薬品
㊪：診療報酬点数表における後発医薬品 ㊫：同額・高額のため加算等の算定対象となる後発品とはみなさない（除外）品目
㊬：同剤形・規格内に後発品がある先発医薬品 ㊭：他剤形・規格に後発品がある先発医薬品
㊮：他剤形・規格にも後発品がない先発医薬品 ㊯：同剤形・規格により安価な後発品が存在し、先発品に準ずる扱いとなる医薬品（準先発品）
☆：より安価な後発品が存在しない先発医薬品
㊰：令和6年3月31日が使用期限の告示品目（経過措置品目） 麻：麻薬 毒：毒薬 劇：劇薬
㊱：令和5年9月30日が使用期限の告示品目（経過措置品目） 覚：覚醒剤原料 向：向精神薬
生：生物学的製剤 Aq：注射用水の価格を加算できるもの
静：静脈内注射が妥当と思われるもの 造：造影剤加算の対象となる薬剤
㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿：以下の多剤投与の対象と考えられる抗不安薬・睡眠薬・抗うつ薬・抗精神病薬各々3種類以上の投薬、又は4種類以上の抗不安薬及び睡眠薬の投薬（臨時・3種類の抗うつ薬又は抗精神病薬をやむを得ず投与するものを除く）
㊿：効能・効果 ㊿：禁忌（次の患者には投与しないこと）
㊿：用法・用量 ㊿：併用禁忌（併用しないこと）
㊿：保険請求・審査において関連があると思われる厚生労働省保険局通知等

※本書記載の「効能・効果」「用法・用量」「禁忌」「併用禁忌」は各医薬品の添付文書に準拠しています。しかし、あくまでも保険請求事務・審査の参考用として編集していますので、添付文書記載表現と完全に一致はしていません。また、ガイドライン等治療方針についても記載していません。臨床上の参考にする場合は添付文書を参照してください。

診療報酬における算定対象の区分により、以下の記号を使用しています。

本書上のマーク		概要
⊖	1 ※※	診療報酬上の後発品が存在しない先発医薬品（新薬等）。
先 先	2	診療報酬上の後発品が存在する先発医薬品。 先は同じ剤形・規格内（※）に後発品が存在する先発医薬品、 先は他の剤形・規格等において対応する後発品が存在する先発医薬品です。 ※内用薬の普通錠・OD錠・カプセル・分散錠・粒状錠や散・顆粒・細粒・末、液・シロップ・ドライシロップ、注射薬の瓶・管・袋などで、同じ成分量のもの同一とみなしている場合があります。
後	3	診療報酬上、加算等の対象となる後発医薬品（ジェネリック医薬品）。
後除	★印が付されたもの	薬価が先発品に比べ同額または高額である医薬品で、加算等の算定対象とみなされません（診療報酬上の後発品から除外）。
☆	☆印が付されたもの	より安価な後発品が存在しない先発医薬品で、加算等の算定対象となりません。
先	—	先発品に分類されないものの、同じ剤形・規格内の後発品より高額であるため、先発品に準ずる取扱いとなる医薬品（準先発品）。※内用薬・外用薬のみ
(マークなし)	—	上記いずれにも該当しない医薬品です。 生薬や漢方製剤のほか、長い間使用され定着しているもの、また、基礎的医薬品の扱いとなっているものなどで、先発・後発といった区別がつけられない品目、院外処方が想定されない注射薬等である可能性があります。

※※令和5年度改定で基礎的医薬品とされた先発品を除く

したがって、本書における「後発医薬品の数量シェア（置換え率）」の計算は以下の通りです。

後発医薬品の数量シェア（置換え率）

（先で分類される品目の数量）

$$= \frac{\text{（先および先で分類される品目の合計数量）}}{\text{（先および先で分類される品目の合計数量）} + \text{（先で分類される品目の数量）}}$$

参考：厚生労働省HP「薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（令和5年4月1日適用）」より

各先発医薬品における後発医薬品の有無及び後発医薬品について、1：後発医薬品がない先発医薬品（後発医薬品の上市前の先発医薬品等）、2：後発医薬品がある先発医薬品（先発医薬品と後発医薬品で剤形や規格が同一でない場合等を含む。ただし、全ての後発医薬品が経過措置として使用期限を定められている場合を除きます。後発医薬品と同額又は薬価が低いものについては、「☆」印を付しています。）と3：後発医薬品（先発医薬品と同額又は薬価が高いものについては、「★」印を付しています。）として分類しています。なお、昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品及び令和5年度薬価基準改定において、同一成分及び同一剤形区分の品目が全て「基礎的医薬品」の対象となった成分については、「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」は空欄となっています。

「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」（厚生労働省平成25年4月5日）に基づく後発医薬品の数量シェア（置換え率）※における『後発医薬品のある先発医薬品』が2で分類される品目であり、『後発医薬品』が3で分類される品目であるため、置換え率を算出する際には、こちらの情報をご活用ください。

※後発医薬品の数量シェア（置換え率）

$$= \frac{\text{〔後発医薬品の数量〕}}{\text{〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕} + \text{〔後発医薬品の数量〕}}$$

$$= \frac{\text{〔3で分類される品目の数量（★を除く）〕}}{\text{〔2で分類される品目の数量（☆を除く）〕} + \text{〔3で分類される品目の数量（★を除く）〕}}$$

⑤会社名

- ・2社以上を＝で結んだものは、先頭が製造販売承認取得会社、それ以降は販売会社を示す。

⑥Y J コード／医薬品請求コード

- ・先頭の12桁のコードはY J コード（薬価情報コード）を示し、後ろの9桁のコードは医薬品請求コード（レセプト電算処理システムコード）を示す。
- ・医薬品請求コードは、一部製品において商品名関連コードで代用した。

⑦薬効分類／標榜薬効／成分名

- ・薬効分類は、原則として日本標準商品分類の「医薬品の項」に拠ったが、使用実態に合わせるため、一部修正し、4桁（一部は5桁目にアルファベットを付す）分類で表示した。また、複数の薬効が考えられるものについては「/」で区切り、その番号を記載した（桁数は品目・薬効による）。
- ・標榜薬効は、添付文書もしくは日本標準商品分類で分類されている薬効名を示したが、薬効が複数あるもの等、一部品目については独自表記とした。
- ・成分名については、一般名、薬価基準記載名称（日本薬局方医薬品の局方名、生物学的製剤基準記載品はその基準名等）、また配合剤にあつては、一般名のほか、その内容や形状を表すいわゆる通称（高カロリー輸液用基本液、パップ剤等）を記載した。なお、複数の品目が記載される中、成分として水和物表記が異なるのみで同一と見なせるものについては、水和物を割愛またはまとめる表記とした（ドセタキセル、ペメトレキセドナトリウム水和物・同ヘミペンタ水和物等）。

これらの通称を含む名称等を50音順とし、各品目を巻末にまとめた（「一般名索引」）。

⑧適応／用法

- ・「適応」は添付文書の「効能・効果」を、「用法」は添付文書の「用法・用量」を編集し記載した。ただし、保険請求・審査に直接関わらない特記事項は省略した。
- ・「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」のうち、保険請求・審査に関わると思われるものを、「注）」として記載した。

⑨保険メモ

- ・保険請求・審査において関連があると思われる厚生労働省保険局通知等の概要を記載した（令和5年3月3日入手分まで）。なお、3月収録の新薬は審議・承認時資料を基に基本情報を掲載したが、各薬剤に対する保険局通知ほか最新情報は個別に参照されたい（本書発行時の追加情報はホームページ上でご案内予定です→巻頭参照）。
- ・医療事故防止の為の名称変更品等では、現場の混乱を避けるため一部旧名称品の内容を掲載した。
- ・ビタミン剤等、通知内容の対象となる品目が特定できない一部の薬剤については、該当する可能性があるとと思われる品目を適宜選別し、参考として記載した。

⑩禁忌／併用禁忌

- ・「禁忌」は添付文書の「禁忌（次の患者には投与しないこと）」を、「併用禁忌」は「使用上の注意」中、「併用禁忌（併用しないこと）」より編集し、理由を除き記載した。

⑪薬価基準記載日／投与日数

- ・令和4年4月以降に薬価基準記載となった新医薬品のうち、内用薬および外用薬には「（薬価基準記載日：年月日）」として記載日を記載した。また、新医薬品の他、投与日数に制限のある麻薬、向精神薬に対しては制限日数を「（投与：○日まで）」と記載した（内用薬と外用薬のみ）。

注射薬

園動注用アイエーコール100mg (日本化薬)	100mg 1瓶 毒 57,658 4291401D1026/620001919
園動注用アイエーコール50mg	50mg 1瓶 毒 29,307 4291401D2022/620002591

4291 抗悪性腫瘍剤 シスプラチン

適応 肝細胞癌。

用法 100mgあたり70mLの生理食塩液を加えて溶解。1日1回65mg/m²(体表面積)、肝動脈内に挿入されたカテーテルから20～40分間で肝動脈内投与、4～6週間休業。これを1クールとし繰り返す。症状等により適宜減量。腎毒性を軽減するために次の処置を行う。投与前1,000～2,000mLの適当な輸液を4時間以上かけて投与。投与時から投与終了後、1,500～3,000mLの適当な輸液を6時間以上かけて投与。投与中は必要によりマンニトール及びフロセミド等の利尿剤を投与。

禁忌 ①重篤な腎障害②本剤・他の白金を含む薬剤に過敏症の既往歴③妊婦・妊娠の可能性

注射用アイオナール・ナトリウム (0.2)	200mg 1瓶 静劇向 228 (日医工) 1125401D2028/620004156
---------------------------------	--

1125 催眠鎮静剤 セコバルビタールナトリウム

適応 不眠症、麻酔前投薬、全身麻酔の導入、不安緊張状態の鎮静。

用法 1回100～200mg(5%溶液2～4mL)、徐々に静注又は筋注。年齢・症状により適宜増減。総量500mg(5%溶液10mL)までが望ましい。

禁忌 ①バルビツール酸系化合物に過敏症②急性間歇性ポルフィリン症

※ アイソボリン点滴静注用25mg (ファイザー)	25mg 1瓶 763 3929407D1160/620007161
※ アイソボリン点滴静注用100mg	100mg 1瓶 2,541 3929407D2108/620007162

3929i 活性型葉酸製剤 レボホリナートカルシウム

適応 レボホリナート・フルオロウラシル療法/胃癌(手術不能・再発)及び結腸・直腸癌に対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強。レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法/結腸・直腸癌、小腸癌及び治癒切除不能な膵癌に対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強。[公知申請により追記予定]レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法/治癒切除不能な進行・再発の胃癌に対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強。(令和4年10月31日より保険適用)

用法 [レボホリナート・フルオロウラシル療法] 1回250mg/m²、2時間かけて点滴静注。投与開始1時間後にフルオロウラシル1回600mg/m²を3分以内で緩徐に静注。1週間ごとに6回繰り返した後、2週間休業。これを1クールとする。[レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法] 結腸・直腸癌 ① 1回100mg/m²、2時間かけて点滴静注。投与終了直後にフルオロウラシル400mg/m²を静注するとともに、フルオロウラシル600mg/m²を静注するとともに、フルオロウラシル600mg/m²、22時間かけて持続静注。これを2日間連続して行い、2週間ごとに繰り返す。② 1回250mg/m²、2時間かけて点滴静注。投与終了直後にフルオロウラシル2600mg/m²、24時間かけて持続静注。1週間ごとに6回繰り返した後、2週間休業。これを1クールとする。③ 1回200mg/m²、2時間かけて点滴静注。投与終了直後にフルオロウラシル400mg/m²を静注するとともに、フルオロウラシル2400～3000mg/m²、46時間かけて持続静注。これを2週間ごとに繰り返す。小腸癌・治癒切除不能な膵癌、治癒切除不能な進行・再発の胃癌 1回200mg/m²、2時間か

けて点滴静注。投与終了直後にフルオロウラシル400mg/m²を静注するとともに、フルオロウラシル2400mg/m²、46時間かけて持続静注。これを2週間ごとに繰り返す。

注)25mg注は3～5mL、100mg注は10～15mLの5%ブドウ糖液、生理食塩液又は電解質維持液等の溶解液を用いて、各バイアル内容を溶解・採取した後、同一の溶解液を用いて全量を200～500mLとし投与。

禁忌 ①重篤な骨髄抑制②下痢③重篤な感染症を合併している者④多量の腹水、胸水⑤重篤な心疾患・その既往歴⑥全身状態が悪化している者⑦本剤(成分)・フルオロウラシルに重篤な過敏症の既往歴⑧テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中及び投与中止後7日以内 **併薬** テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤・ティーエスワン

園アイモビーグ皮下注70mg ベン	70mg 1mL 1瓶 [※] 41,051 (アムジェン) 1190406G1029/629915601
-----------------------------	---

1190 ヒト抗CGRP受容体モノクローナル抗体製剤 エレヌマブ
(遺伝子組換え)

適応 片頭痛発作の発症抑制。

用法 70mgを4週間に1回、皮下注。

保険料 <1>(1)最適使用推進ガイドラインに従い、有効性及び安全性に関する情報が十分蓄積するまでの間、本製品の恩恵を強く受けることが期待される患者に対して使用するとともに、副作用が発現した際に必要な対応をとることが可能な一定の要件を満たす医療機関で使用するよう十分留意する。(2)投与開始に当たっては、次の事項を診療報酬明細書の摘要欄に記載：①本剤に関する治療の責任者として配置されている医師について、次のアに該当し、イ～オのいずれかの学会の専門医の認定を有していることとされているため、投与開始に当たっては、診療報酬明細書の摘要欄に次のア～オのうち該当するもの(「医師要件ア」から「医師要件オ」までのうち該当するものを全て記載)／ア 医師免許取得後2年の初期研修を修了した後に、頭痛を呈する疾患の診療に5年以上の臨床経験を有している。イ 日本神経学会。ウ 日本頭痛学会。エ 日本内科学会(総合内科専門医)。オ 日本脳神経外科学会。②本剤の投与開始前3ヶ月以上における1ヶ月あたりの片頭痛日数(片頭痛又は片頭痛の疑いが起こった日数)の平均。③本剤の投与の要否の判断にあたっては、次のアに該当し、イ～エのいずれかを満たす患者であることを確認することとされているため、本剤投与前の片頭痛発作の発症抑制薬による治療の状況(「前治療要件ア」から「前治療要件エ」のうち該当するものを全て記載)／ア 非薬物療法及び片頭痛発作の急性期治療等を既に実施している患者であり、それらの治療を適切に行っても日常生活に支障をきたしている。イ 本邦で既承認の片頭痛発作の発症抑制薬のいずれかが、効果が十分に得られず使用又は継続ができない。ウ 本邦で既承認の片頭痛発作の発症抑制薬のいずれかが、忍容性が低く使用又は継続ができない。エ 本邦で既承認の片頭痛発作の発症抑制薬のいずれかが、禁忌、又は副作用等の観点から安全性への強い懸念があり使用又は継続ができない。(3)投与中は症状の経過を十分に観察し、投与開始後3ヶ月(3回投与後)を目安に治療上の有益性を評価して症状の改善が認められない場合には投与中止を考慮することとされているため、当該評価を実施した際の診療報酬明細書の摘要欄に、症状の改善が認められた旨を記載。(4)投与開始後も定期的に投与継続の要否について検討し、頭痛発作発現の消失・軽減等により日常生活に支障をきたさなくなった場合には投与中止を考慮する(令3.8.11保医発0811第4号)。<2>針付注入器一体型のキットであるので、在宅自己注射指導管理料を算定する場合、注入器加算及び注入器用注射針加算は算定できない(令4.8.31保医発0831第5号)。

禁忌 本剤(成分)に過敏症の既往歴

園アイリーア硝子体内注射液 40mg/mL (バイエル=参天)	2mg 0.05mL 1瓶 劇 138,986 1319405A1027/622199401
---	---

1319i 眼科用VEGF阻害剤 アフリバルセプト(遺伝子組換え)

内用薬

園 アイクルシグ錠15mg (大塚製薬)	15mg 1錠 劇 6,428.40 4291048F1020/622483401
-------------------------	--

4291 抗悪性腫瘍剤 ポナチニブ塩酸塩
適応 前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病。再発又は難治性のフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病。
用法 1日1回45mg, 経口投与。状態により適宜減量。
禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠の可能性

園 アイセントレス錠400mg (MSD)	400mg 1錠 劇 1,582.10 6250032F1026/620007815
--------------------------	---

6250i HIVインテグラーゼ阻害剤 ラルテグラビルカリウム
適応 HIV感染症。
用法 1回400mg, 1日2回経口投与。食事の有無にかかわらず投与可。必ず他の抗HIV薬と併用。
保険料 診療報酬明細書等の取扱いにおいては、当該患者の秘密の保護に十分配慮する(平20.6.27保医発0627003)。
禁忌 本剤(成分)に過敏症の既往歴

園 アイセントレス錠600mg (MSD)	600mg 1錠 劇 1,533.30 6250032F2022/622626001
--------------------------	---

6250i HIVインテグラーゼ阻害剤 ラルテグラビルカリウム
適応 HIV感染症。
 注)抗HIV治療経験がないHIV感染患者、又はラルテグラビル400mg1日2回と他の抗HIV薬でウイルス学的抑制が得られているHIV感染患者に使用。
用法 1日1回1200mg, 経口投与。食事の有無にかかわらず投与可。必ず他の抗HIV薬と併用。
禁忌 本剤(成分)に過敏症の既往歴

先 園 アイトロール錠10mg (トーアエイヨー)	10mg 1錠 10.10 2171023F1023/612170716
------------------------------	---

先 園 アイトロール錠20mg	20mg 1錠 10.20 2171023F2020/612170717
-----------------	---

2171 狭心症治療用ISMN製剤 一硝酸イソソルビド
適応 狭心症。
用法 1回20mg, 1日2回経口投与。年齢・症状により適宜増減。効果不十分な場合, 1回40mg, 1日2回まで増量可。労作狭心症・労作兼安静狭心症で重症と判断された場合, 1回40mg, 1日2回経口投与可。
禁忌 ①重篤な低血圧・心原性ショック②閉塞隅角緑内障③頭部外傷・脳出血④高度な貧血⑤硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往歴⑥ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤, グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤を投与中 (併禁) ①ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩<バイアグラ, レバチオ>, パルデナフィル塩酸塩水和物<レビトラ>, タダラフィル<シアリス, アドシルカ, ザルティア>)②グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト<アデムパス>)

先 アイピーディカプセル50 (大鵬薬品)	50mg 1錠 18.60 4490016M1023/610407001
--------------------------	---

先 アイピーディカプセル100	100mg 1錠 20.60 4490016M2020/610407002
-----------------	--

4490 アレルギー性疾患治療剤 スプラタストシル酸塩
適応 気管支喘息, アトピー性皮膚炎, アレルギー性鼻炎。
用法 1回100mg, 1日3回毎食後経口投与。年齢・症状により適宜増減。
禁忌 本剤(成分)に過敏症の既往歴

園 アイピーディロシロップ5% (大鵬薬品)	5% 1g 32.20 4490016R1020/610451011
---------------------------	---------------------------------------

4490 アレルギー性疾患治療剤 スプラタストシル酸塩
適応 気管支喘息。
用法 小児1回3mg/kg, 1日2回朝夕食後, 用時溶解経口投与。年齢・症状により適宜増減。1日300mg(DS:6g)まで。標準投与量は3~5歳未満37.5mg(DS:0.75g), 5~11歳未満75mg(DS:1.5g), 11歳以上100mg(DS:2g)。
禁忌 本剤(成分)に過敏症の既往歴

先 園 アイミクス配合錠LD (住友ファーマ)	1錠 劇 69.20 2149118F1020/622199201
----------------------------	--------------------------------------

先 園 アイミクス配合錠HD	1錠 劇 76.60 2149118F2026/622199301
----------------	--------------------------------------

2149T 長時間作用型ARB/持続性Ca拮抗薬配合剤 イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤
適応 高血圧症。
用法 1日1回1錠, 経口投与。本剤は高血圧治療の第一選択薬としての使用不可。
禁忌 ①本剤(成分)・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠の可能性③アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(ただし, 他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く) (併禁) アリスキレンフマル酸塩<ラジレス>(糖尿病に使用する場合。ただし, 他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の者を除く)

後 園 アカルボース50mg錠	50mg 1錠 8.40 3969003F1018/622740600
-----------------	--

後 園 アカルボース100mg錠	100mg 1錠 14.50 3969003F2014/622740700
------------------	--

後 園 アカルボース50mg 口腔内崩壊錠	50mg 1錠 8.40 3969003F3010/622740800
--------------------------	--

後 園 アカルボース100mg 口腔内崩壊錠	100mg 1錠 14.50 3969003F4017/622740900
---------------------------	--

3969i 食後過血糖改善剤 アカルボース
適応 各銘柄(商品名)参照。
用法 各銘柄(商品名)参照。

後 園 アカルボース錠50mg「JG」 (日本ジェネリック)	50mg 1錠 8.40 3969003F1050/620009289
-----------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg「NS」 (日新製薬)	50mg 1錠 8.40 3969003F1069/620009288
-------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg「YD」 (陽進堂=第一三共エスファ)	50mg 1錠 8.40 3969003F1077/620009292
---------------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg 「日医工」 (日医工)	50mg 1錠 8.40 3969003F1085/620009290
--------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg 「サワイ」 (沢井)	50mg 1錠 8.40 3969003F1093/621958701
-------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg「テバ」 (武田テバファーマ=武田)	50mg 1錠 8.40 3969003F1131/621784902
--------------------------------------	--

後 園 アカルボース錠50mg「NIG」 (日医工岐阜=日医工=武田)	50mg 1錠 8.40 3969003F1140/621784903
--	--

後 園 アカルボース錠100mg「JG」 (日本ジェネリック)	100mg 1錠 14.50 3969003F2057/620009294
------------------------------------	--

後 園 アカルボース錠100mg「NS」 (日新製薬)	100mg 1錠 14.50 3969003F2065/620009293
--------------------------------	--

後 園 アカルボース錠100mg「YD」 (陽進堂=第一三共エスファ)	100mg 1錠 14.50 3969003F2073/620009297
--	--

後 園 アカルボース錠100mg 「日医工」 (日医工)	100mg 1錠 14.50 3969003F2081/620009295
---------------------------------	--

後 園 アカルボース錠100mg 「サワイ」 (沢井)	100mg 1錠 14.50 3969003F2090/621958801
--------------------------------	--

後 園 アカルボース錠100mg「テバ」 (武田テバファーマ=武田)	100mg 1錠 14.50 3969003F2138/621785002
---------------------------------------	--

外用薬

固 アイオピジンUD点眼液1% 1%0.1mL1個 劇 656.80
(ノバルティス) 1319737Q1038/620005244

1319i レーザー術後眼圧上昇防止剤 アブラクロニジン塩酸塩
適応 次の術後に生じる眼圧上昇の防止/アルゴンレーザー線維柱帯形成術, アルゴンレーザー虹彩切開術, Nd-ヤグレーザー後のう切開術。
用法 レーザー照射1時間前, 照射直後に術眼に1滴ずつ点眼。
禁忌 ①本剤(成分)・クロニジンに過敏症の既往歴②モノアミン酸化酵素阻害剤の投与を受けている者 **併薬** モノアミン酸化酵素阻害剤

固[○] アイドロイチン1%点眼液 1%5mL1瓶 86.40
(参天) 1319709Q3020/661310284
 固[○] アイドロイチン3%点眼液 3%5mL1瓶 88.80
1319709Q4027/661310285

1319i 角膜保護点眼剤 コンドロイチン硫酸エステルナトリウム
適応 角膜表層の保護。
用法 1回1~2滴, 1日2~4回点眼。

赤 アイファガン点眼液0.1% 0.1%1mL 322.60
(千寿=武田) 1319761Q1023/622150001

1319i 緑内障・高眼圧症治療剤 プリモニジン酒石酸塩
適応 次の疾患で他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合/緑内障, 高眼圧症。
用法 1回1滴, 1日2回点眼。
禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②低出生体重児, 新生児, 乳児又は2歳未満の幼児

固 アイベータ配合点眼液 1mL 421.70
(千寿=武田) 1319824Q1020/622698001

1319J 緑内障・高眼圧症治療剤 プリモニジン酒石酸塩・チモロールマレイン酸塩
適応 次の疾患で, 他の緑内障治療薬が効果不十分な場合/緑内障, 高眼圧症。
用法 1回1滴, 1日2回点眼。
禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②低出生体重児, 新生児, 乳児又は2歳未満の幼児③気管支喘息・その既往歴, 気管支痙攣又は重篤な慢性閉塞性肺疾患④コントロール不十分な心不全, 洞性徐脈, 房室ブロック(II・III度), 心原性ショック

固 アイラミド配合懸濁性点眼液 1mL 460.10
(千寿=武田) 1319825Q1025/622795101

1319J 緑内障・高眼圧症治療剤 プリモニジン酒石酸塩・プリンゾラミド
適応 次の疾患で, 他の緑内障治療薬が効果不十分な場合/緑内障, 高眼圧症。
用法 1回1滴, 1日2回点眼。
禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②低出生体重児, 新生児, 乳児又は2歳未満の幼児③重篤な腎障害

固[○] 亜鉛華軟膏 (一般名) 10g 22.00
2649704M1015/662640446
 固 亜鉛華軟膏「コザカイ・M」 10g 27.00
(小堺=岩城) 2649704M1066/621716101
 固 亜鉛華軟膏 シオエ 10g 22.00
(シオエ=日本新薬) 2649704M1074/620001570
 固 亜鉛華軟膏「司生堂」(司生堂) 10g 22.00
2649704M1090/620001571

固 亜鉛華軟膏(ハチ) 10g 27.00
(東洋製化=小野=健栄) 2649704M1112/660431049
 固 亜鉛華軟膏「ホエイ」 10g 22.00
(マイランEPD=ヴィアトリス) 2649704M1120/662640903
 固 亜鉛華軟膏「ニココー」 10g 27.00
(日興製薬=丸石=日興製薬販売) 2649704M1171/620608511
 固 亜鉛華軟膏「ヨシダ」 10g 27.00
(吉田製薬) 2649704M1180/662640808
 固 亜鉛華軟膏「東豊」 10g 27.00
(東豊=日医工) 2649704M1201/620008409
 固 亜鉛華軟膏「JG」 10g 22.00
(日本ジェネリック) 2649704M1210/620008556
 固 亜鉛華軟膏「日医工」(日医工) 10g 27.00
2649704M1228/620608525

2649i 収斂・消炎・保護剤 亜鉛華
適応 次の皮膚疾患の取れん・消炎・保護・緩和な防腐/外傷, 熱傷, 凍傷, 湿疹・皮膚炎, 肛門そう痒症, 白癬, 面皰, 癩, よう。その他の皮膚疾患によるびらん・潰瘍・湿潤面。
用法 症状により1日1~数回, 患部に塗擦又は貼付。
禁忌 重度・広範囲の熱傷

固 亜鉛華(10%)単軟膏 10g 19.50
「コザカイ・M」(小堺=岩城) 2649710M2025/662640563
 固 亜鉛華(10%)単軟膏シオエ 10g 21.90
(シオエ=日本新薬) 2649710M2033/662640564
 固 亜鉛華(10%)単軟膏「ニココー」 10g 21.90
(日興製薬=丸石=健栄=日興製薬販売) 2649710M2050/662640566
 固 亜鉛華(10%)単軟膏「ホエイ」 10g 18.50
(マイランEPD=ヴィアトリス) 2649710M2068/662640567
 固 亜鉛華(10%)単軟膏「ヨシダ」 10g 21.90
(吉田製薬) 2649710M2092/662640570

2649i 収斂・消炎・保護剤 亜鉛華単軟膏
適応 次の皮膚疾患の取れん・消炎・保護・緩和な防腐/外傷, 熱傷, 凍傷, 湿疹・皮膚炎, 肛門そう痒症, 白癬, 面皰, 癩, よう。その他の皮膚疾患によるびらん・潰瘍・湿潤面。
用法 症状により1日1~数回, 患部に塗擦又は貼付。
禁忌 重度・広範囲の熱傷

固 亜鉛華デンブン (一般名) 10g 22.10
2649705X1016/662640445
 固 亜鉛華デンブン「コザカイ・M」 10g 23.30
(小堺=丸石) 2649705X1059/620632715
 固 亜鉛華デンブン「司生堂」 10g 22.10
(司生堂) 2649705X1075/620001575
 固 亜鉛華デンブン 10g 22.10
(山善=日興製薬販売) 2649705X1164/662640445

2649i 収斂・消炎・保護剤 亜鉛華デンブン
適応 次の皮膚疾患の取れん・消炎・保護・緩和な防腐/湿疹・皮膚炎, 汗疹, 間擦疹, 日焼け。
用法 症状により1日1~数回, 綿等に含ませて軽く散布して用いる。
禁忌 ①重度・広範囲の熱傷②患部の湿潤

固 アクアチム軟膏1% (大塚製薬) 1%1g 24.50
2639700M1029/620000348

2639i 新キノロン系外用抗菌剤 ナジフロキサシン
適応 <適応菌種>本剤感性のブドウ球菌属, アクネ菌。<適応症>表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症。
用法 1日2回, 適量を患部に塗布。
注)1週間で効果が認められない場合は中止。

固 アクアチムクリーム1% 1%1g 24.50
(大塚製薬) 2639700N1032/620005245

一般名索引

本文に収録した薬価基準記載医薬品（生薬・漢方製剤を除く）について、一般名・規格単位の50音順に配列し、さらにその中で診療報酬上の先発品・後発品といった区別および商品名の50音順とした。

凡 例

①	カロスリベラ		
	1g		
②	マンモス原末* (泪橋製薬)		XX
	【般】カロスリベラ錠100mg → ^{加1,2}		
③	■ホセメン錠100mg		XXX
	■アシタノ錠100		X
	■カロスリベラ錠100mg 各種		XX
	200mg1錠		
	○ホセメン錠200mg		XXX
			④

- ①一般名欄…成分名や局方名等。配合剤にあっては一般名のほか、その内容や性状を表すいわゆる通称等も含む。なお、先頭にある「ℓ-」「dl-」「乾燥」等の文字列は接頭語とみなし、それらを省いた配列とした。また、複数の品目が記載される中、成分として水和物表記が異なるのみで同一と見なせるものについては、水和物を割愛またはまとめる表記とした（ドセタキセル、ペメトレキセドナトリウム水和物・同ヘミペンタ水和物等）。
- ②規格単位欄…規格単位または一般名処方の標準的な記載（厚生労働省が公開する一般名処方時の使用を前提とした表記）。後者に該当する場合、背景をグレーで表記し、対応する一般名処方加算の種別を記号で示した（^{加1}は加算1のみ、^{加1,2}は加算1・2いずれにも使用できる）。
- なお、令和5年4月1日現在として整理した標準的記載のうち、同一と見なす剤形や規格によっては加算の対象や種別が異なる場合があるので注意されたい。
- ③先発・後発等マーク…本文マークに準拠。
- ④商品名…本文の記載に準拠。商品名のうち、先頭に「強力」「新」「注射用」等の文字や規格数を付与してあるものは、それを“接頭語”とみなし、省いた並びで配列した。また名称が一般名や、それに剤形、規格数および「」書きの屋号を付加して構成される品目等については、多数にわたる場合「～各種」などとまとめた。
- ⑤参照ページ…本文の掲載ページを示す。

※なお本索引中、同じ一般名・規格でまとめられた品目（群）であっても、全ての先発・後発品の対応（代替の可否）は保証されない。詳細は本文内容および最新の添付文書等を参照されたい。

ア

亜鉛華		
10g	亜鉛華軟膏 各種	457
亜鉛華単軟膏		
【般】亜鉛華単軟膏10% →加1		
	亜鉛華(10%)単軟膏 各種	457
亜鉛華デンブ		
10g	亜鉛華デンブ 各種	457
亜鉛華軟膏貼付剤		
【般】亜鉛華軟膏貼付剤20% →加1		
	ポチシート20%	552
アカラブルチニブ		
100mg1錠	園カルケンスカプセル100mg	98
アガルシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)		
3.5mg3.5mL1瓶	園リプレガル点滴静注用3.5mg	845
アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)		
5mg1瓶	園アガルシダーゼ ベータBS点滴静注5mg「JCR」	578
5mg1瓶	園ファブラザイム点滴静注用5mg	782
35mg1瓶	園アガルシダーゼ ベータBS点滴静注35mg「JCR」	578
35mg1瓶	園ファブラザイム点滴静注用35mg	782
アカルボース		
【般】アカルボース錠50mg →加1		
	園アカルボース錠50mg 各種	1
【般】アカルボース口腔内崩壊錠50mg →加1		
	園アカルボースOD錠50mg「NIG」	2
	園アカルボースOD錠50mg「テバ」	2
【般】アカルボース錠100mg →加1		
	園アカルボース錠100mg 各種	1.2
【般】アカルボース口腔内崩壊錠100mg →加1		
	園アカルボースOD錠100mg「NIG」	2
	園アカルボースOD錠100mg「テバ」	2
アカンプロサートカルシウム		
333mg1錠	園レグテクト錠333mg	430
アキシカプタゲン シロルユーセル		
1患者当たり	園イエスカクタ点滴静注	600
アキシチニブ		
1mg1錠	園インライタ錠1mg	50
5mg1錠	園インライタ錠5mg	50
アクタリット		
【般】アクタリット錠100mg →加1.2		
	園オークル錠100mg	76
	園モーバー錠100mg	396
	園アクタリット錠100mg 各種	2
アクチノマイシンド		
0.5mg1瓶	園コスメゲン静注用0.5mg	671

アクリルピシリン塩酸塩		
20mg1瓶	園アクラシノン注射用20mg	580
アクリジニウム臭化物		
30吸入1 ^{1/2}	園エクリラ400μgジェヌエア30吸入用	471
60吸入1 ^{1/2}	園エクリラ400μgジェヌエア60吸入用	471
アコチアミド塩酸塩水和物		
100mg1錠	園アコファイド錠100mg	3
アザシチジン		
100mg1瓶	園ビダーザ注射用100mg	771
	園アザシチジン注射用100mg 各種	580
150mg1瓶	園アザシチジン注射用150mg 各種	580
アザチオプリン		
50mg1錠	園アザニン錠50mg	3
	園イムラン錠50mg	46
亜酸化窒素		
1g	園亜酸化窒素 各種	459,471
	園アネスタ	462
	園小池笑気	502
アシクロビル		
【般】アシクロビル錠200mg →加1.2		
	園ゾビラックス錠200	201
	園アシクロビル錠200mg 各種	4
【般】アシクロビル錠400mg →加1.2		
	園ゾビラックス錠400	201
	園アシクロビル錠400mg 各種	4
【般】アシクロビル顆粒40% →加1.2		
	園ゾビラックス顆粒40%	201
	園アシクロビル顆粒40% 各種	4
【般】アシクロビルシロップ用80% →加1		
	園アシクロビルDS40%	4
【般】アシクロビルシロップ8% →加1		
	園アシクロビルシロップ8% 各種	4
【般】アシクロビル経口ゼリー 200mg →加1		
	園アシクロビル内服ゼリー200mg「日医工」	4
【般】アシクロビル経口ゼリー 800mg →加1		
	園アシクロビル内服ゼリー800mg「日医工」	4
3%1g	園アシクロビル眼軟膏3% 各種	459
	園ゾビラックス眼軟膏3%	508
【般】アシクロビル軟膏5% →加1.2		
	園ゾビラックス軟膏5%	508
	園アシクロビル軟膏5% 各種	459
【般】アシクロビルクリーム5% →加1.2		
	園ゾビラックスクリーム5%	508
	園アシクロビルクリーム5%「ラクール」	459
250mg1管	園アシクロビル点滴静注液250mg 各種	580
250mg1瓶	園ゾビラックス点滴静注用250	706

園アシクロビル点滴静注用250mg 各種	580	
250mg100mL1袋	園アシクロビル点滴静注液250mgバッグ100mL「アイロム」	580
アジスロマイシン水和物		
【般】アジスロマイシン錠100mg →加1		
	園アジスロマイシン小児用錠100mg「タカタ」	4
【般】アジスロマイシンカプセル100mg →加1.2		
	園ジスロマックカプセル小児用100mg	163
	園アジスロマイシンカプセル小児用100mg 各種	5
【般】アジスロマイシン錠250mg →加1.2		
	園ジスロマック錠250mg	163
	園アジスロマイシン錠250mg 各種	5
【般】アジスロマイシン錠500mg →加1		
	園アジスロマイシン錠500mg 各種	5
600mg1錠	園ジスロマック錠600mg	163
【般】アジスロマイシン細粒10% →加1.2		
	園ジスロマック細粒小児用10%	163
	園アジスロマイシン細粒小児用10% 各種	4
1%1mL	園アジマイシン点眼液1%	459
500mg1瓶	園ジスロマック点滴静注用500mg	682
アシタザノラスト水和物		
5mg5mL1瓶	園ゼベリン点眼液0.1%	507
アシミニブ塩酸塩		
20mg1錠	園セムブリックス錠20mg	193
40mg1錠	園セムブリックス錠40mg	193
亜硝酸アミル		
0.25mL1管	園亜硝酸アミル「AFP」	459
アジルサルタン		
10mg1錠	園アジルバ錠10mg	6
20mg1錠	園アジルバ錠20mg	6
40mg1錠	園アジルバ錠40mg	6
1%1g	園アジルバ顆粒1%	6
アジルサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤		
【般】アジルサルタン・アムロジピン2.5mg配合錠 →加1.2		
	園ザクラス配合錠LD	145
	園ジウムロ配合錠LD 各種	176
【般】アジルサルタン・アムロジピン2.5mg配合剤 口腔内崩壊錠 →加1		
	園ジウムロ配合OD錠LD 各種	176
【般】アジルサルタン・アムロジピン5mg配合錠 →加1.2		
	園ザクラス配合錠HD	145
	園ジウムロ配合錠HD 各種	176